

平成29年度 東部地区道徳教育研究協議会

平成29年10月24日(火)

幸手市立幸手中学校

中学校B部会

主題名 理想の実現【内容項目 A 強い意志】

資料名 「縦系と横系～秩父銘仙を受け継ぐ～」(影の道徳「自分を見つめて」)



実物資料や自作の場面絵



ネームプレートを活用した発問



主体的に考える話し合い活動



校長先生による終末のお話

1 授業者から（「私の授業の観てほしいポイント」の説明、授業についての感想等）

【私の授業の観てほしいポイント】

- ①心情バロメーターについて
- ②発問について（話し合い活動に向けて）
- ③終末について

【授業についての感想等】

- 普段は静かでおとなしい生徒たちだが、積極的に発言をしていた。予想以上の発言をしてくれた生徒もいた。
- 柱立ては最後まで時間どおりにいけるよう教師が主体となって行ったが、生徒から引き出せるようにするにはどうすればよいか。



2 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

【①のポイントについて】

- ネームプレートは全員が参加できることがよい。
- 視覚的に意見が捉えられる。理由も深めることができるのもっとよい。
- 天秤は目を引くが、誰の心情を表しているのかが明確になるともっと良い。

【②のポイントについて】

- 先生と生徒の関わりがよく、生徒たちもスムーズに意見交換ができていた。
- 「自分だったら」という問いかけはよかった。
- 特定の生徒に発言が偏ってしまうところがあった。

【③のポイントについて】

- ゲストティーチャーを生かした取組となっていた。
- 自分の生き方への振り返りが十分に時間が取れていない。
- 終末はできるだけ生徒の考えを聞きたい。
- 深い考えに至った生徒の考えを振り返り、ねらいに迫ってもよかった。



3 指導講評

- 中学校3年生は、なかなか挙手をさせることが難しい。しかし、黙っていても生徒たちはしっかり考えている。今日の生徒たちは頑張って取り組んでいた。考える訓練もできていた。
- 心情を可視化させたことはとてもよかった。子供たちの思考はいつも2択ではない場合もある。工夫するポイントとしては、心情円板など、場に応じてベストの教具を用いること。
- 生徒はよく話し合っていた。特に「自分なら」という問いに対して、生徒は自分のことに置き換えて考えよい意見がたくさん出ていた。その一方で、生徒同士のキャッチボールがもっと見られるとよかった。もっと生徒に意見を求めてもよいのでは。
- 本時の終末のように、管理職の先生方に協力を仰ぐことも大切。
- 終末のことばは生徒から出させたかった。それを考えさせる時間が欲しかった。
- 「よい生き方とは」などの大きな、心に残る投げかけをして終わってもよかった。

